

令和6年11月1日



園長 中川 宏美

みらいだより

運動会では、一人ひとりの子どもに温かい拍手、応援をおくっていただいたことに心から感謝申し上げます。各年齢ごとの子どもが主役のプログラムで、それぞれの育ちをみていただきました。運動会の経験が自信と喜びの心をこどもたちに育んでいます。

11月は、園外保育をできるだけ取り入れ、自然の中でしっかり身体を動かすとともに、季節の移り変わりに気づくことができる活動をしたいと思います。

11月			
月	日	曜	行事予定
11	6	水	秋の遠足(そら)
	12	火	人形劇観劇
	13	水	身体測定(どんぐり・ひかり)
	14	木	身体測定(りす・そら)
	15	金	身体測定(たけのこ・うさぎ)
	16	土	・保護者交流会 (うさぎ・そら・ひかり) ・お弁当の日
	19	火	秋の遠足(ひかり)
	26	火	秋の遠足(うさぎ:藤原 G)
	28	木	秋の遠足(うさぎ:宮崎 G)

※変更の場合あり

「みてみて」

園庭で2歳児のO君とM君が「おつきさまがおったよ」「みてみてひこうきぐももあった」「あのくもは、さかなのかたちだね」と、空を指さして教えてくれます。「お月さまおったね」「ひこうき雲もみえるね」と伝えると「うん」とうなづいてこどもの想像は雲の上へと広がっています。

このエピソードを担当に伝えると、「月や雲の絵本に興味をもっていました」と教えてくれました。絵本でみた雲や月が印象深く心に残り、月や雲に興味を持って伝えてくれたのでした。雲や月を見る機会も日々の忙しさの中で少なくなりがちです。子どもの感性から、改めて日常の豊かさに気づくことができました。

「学びに向かう力」～日本教育新聞より～

心を動かす体験からやりたいことが生まれて、それを最後までやり遂げようとすることを「学びに向かう力」と言います。幼児期に遊びこむ経験が多いほど、「学びに向かう力」は育つとされています。

「遊びのための環境が充実し、保育者の関わりが受容的である方が、子どもがたっぷり遊びこんでいるということ」と、白梅学園大学の無藤隆教授は報告しています。



どんぐり組(0歳児)：「(い) も！」

「なにがでてくるかな」と保育者が掘る様子をじっとみていました。興味津々に覗き込んでいると、出てきた芋を指さして「も！」。保育者と一緒に芋のつるを引っ張って土を掘ってお芋を探していました。



たけのこ組(1歳児)：「秋見つけ」

木の根っこに開いた穴をのぞきこむようにどんぐりを入れたり、大きな木の幹の空洞の中にたくさんのどんぐりをみつけて一生懸命掘みます。「トトロみたい」「トトロ♪トトロ♪」とうたいながら夢中になってどんぐりを拾っていました。

りす組(2歳児)：「できた！」

「みんな、てつだって」はしごを友だちと協力して運び、「ここにおく」「タイヤにおく」はしごとタイヤを組み合わせて自分たちで遊びの環境を作ります。「できた」「こっち」自分たちで組んだ遊び環境で「わ～い。できた」と意欲的に遊んでいました。



うさぎ組(3歳児)：「雨の日の泥だんご」

「あっちにいいどろがあったよ」「おお～。このつちいいね～」「いいことおもいついた！」「このふにゃふにゃつちをなげてみよう」雨の日の土はどろどろで、いろいろな形に変化することに気づいて試行錯誤しながら楽しんでいました。

そら組(4歳児)：「おおきなおいも」

「おおきいのあるかね」「いっぱいあるかな」とわくわく。「つるにくっついてとる」「まだでてくるよ」「おおきいのとれた」「何センチかね」「これ10センチじゃ」「これは24センチじゃね」芋のサイズを測り、大きさ比べも楽しんでいました。「いっぱいとれたね」「はやく、やきいもたべたい」楽しみにしています。



ひかり組(5歳児)「頂上での遊び」

「やまびこさーん」「みて、まちがレゴブロックみたいじゃね」「このいわとか、きょうりゅうのじだいみたいじゃね」「おじそーさんじゃ。みんなでてをあわせよう」岩と岩の狭い隙間を通り抜けたり、岩と岩の間をジャンプします。鬼ヶ城の頂上は、好奇心や探究心満載の遊び環境です。